

I. 令和 5 年度決算見込【資料P4～9】

形式収支は見かけ上改善したものの、実質収支は昨年度よりも悪化

《形式収支差引》		《実質収支差引》				
・ R 4 年度：121百万円		・ R 4 年度：▲ 1,054百万円				
・ R 5 年度：147百万円		・ R 5 年度：▲ 1,797百万円		[単位：百万円]		
R 5 年度決算見込	当初予算 ①	補正予算 ②	現計予算 ③ = ① + ②	決算見込 ④	差引額 ⑤ = ④ - ③	執行率 ⑥ = ④ ÷ ③
歳入合計(A)	39,044	1,500	40,544	39,777	▲ 767	98.11%
歳出合計(B)	39,044	1,500	40,544	39,630	▲ 914	97.75%
収支差額[(A) - (B)]	0	0	0	147		
基金繰入金及び繰越金を除く収支	▲ 1,891	▲ 53	▲ 1,944	▲ 1,797		

収納率が大幅に向上し、形式収支の改善に貢献

《現年度収納率》		《過年度収納率》		現年度分は 県目標収納率 90.50%を達成
● R 3 年度：90.36%		● R 3 年度：15.26%		
● R 4 年度：90.15%		● R 4 年度：14.67%		
● R 5 年度：91.07%		● R 5 年度：15.89%		
				[単位：千円]
区分	予算 ①	収入済額 ②	差額 ③ = ② - ①	
R 4 年度 [A]	8,280,157	8,220,961	▲ 59,196	
R 5 年度 [B]	7,787,674	7,771,753	▲ 15,921	
R 5 年度 [C]※R 4 年度と同じ収納率の場合	7,787,674	7,657,803	▲ 129,871	
収納率向上による形式収支への貢献額 [D] = [C]③ - [B]③				113,950

II. 粗い将来推計について（更新）【資料P21～28】

《更新のポイント》

✓ 被保険者数は、定年延長、働く高齢者の増加、被用者保険の適用拡大などの影響がより強まり、令和 1 2 年度まで減少傾向となった。

✓ 「子ども・子育て支援金」を新たに徴収することに伴い、標準保険料額は増加を見込む。

✓ 医療費水準係数 α の計画的縮小を考慮。

